

憲法審査会レポート

2023-3-3

No. 8

編集：平和フォーラム

2023年3月2日（木） 第211回国会（常会） 第1回 衆議院憲法審査会

【アーカイブ動画】

https://www.shugiintv.go.jp/jp/index.php?ex=VL&deli_id=54369

※「はじめから再生」をクリックしてください

【会議録】

※公開され次第追加します（おおむね2週間後になります）

【マスコミ報道から】

今国会で初の衆院憲法審査会 緊急事態での対応などで議論

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230302/k10013996051000.html>

“大規模災害や戦争など緊急事態での対応を、憲法に規定するかどうかをめぐり、自民党が憲法改正に向けて、さらに議論を進めるよう主張したのに対し、立憲民主党は慎重な議論を求めました。”

“...自民党が「自衛隊の明記」など、4項目の改正案の議論を進めるよう求めたほか、立憲民主党は、現行憲法で同性婚が認められるか議論を深めるべきだと主張しました。”

憲法審査会が今国会で初開催「憲法は同性婚を明示的に禁止はしていないが...」

自民党・新藤筆頭幹事

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/356829>

“立憲民主党は同性婚について、憲法審査会で岸田総理から見解を聴取すべきだと主張したのに対し、自民党の新藤筆頭幹事は「憲法は同性婚を明示的に禁止はしていないが、認めてもない」との認識を示し、法務委員会で議論すべき問題だと反論しました。”

今国会初の衆院憲法審 立民は議員任期延長に慎重姿勢

<https://www.sankei.com/article/20230302-BYCCJ4PJ4RONFNGDV67WVMVZTI/>

“昨年の通常国会では、衆院で翌年度の予算案を審議中の2月10日に初回の憲法審が開かれ、開催は過去最多の16回に及んだ。今国会でも自民や日本維新の会などが2月中の開催を求めたが、立民が令和5年度予算案を審議中の開催に難色を示したことで先延ばしとなった。”

<社説>衆院憲法審査会 優先順位を違えぬよう

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/234293>

“憲法を巡っては、同性婚の法制化に向け、結婚を「両性の合意」に基づくと定める二四
 条の解釈を明確にすることや、敵基地攻撃能力の保有が九条に基づく専守防衛を逸脱す
 るのではないかなど、改憲以外の課題が山積している。”

“改憲ありきではなく、現行憲法の下で国民の暮らしや権利を守る法整備に最善を尽くす
 ことが、憲法を尊重し擁護する義務を負う国会議員の責務である。”

【傍聴者の感想】

今国会初めてとなる衆議院憲法審査会を傍聴しました。私が前回傍聴した際は空席があった傍聴席は、ほぼ満席になりました。

しかし、審査会の内容には恐ろしいものを感じました。日本維新の会は、拙速に改憲をすすめようとする発言に終始していました。自民党に対しては憲法審査会で「本気の姿勢」を見せるべき、と主張。加えて、「ゴールが示されない仕事はあり得ない」

としながら、緊急事態における国会議員の任期延長について、今国会で条文作りに入るよう迫りました。

また、公明党、国民民主党も憲法改正の条文案作りに入ることを主張していました。

こんな乱暴な議論のすすめ方は許すことはできません。私たちの運動はまさに正念場にあると感じました。(Yn)

【国会議員から】中川正春さん（立憲民主党・衆議院議員／憲法審査会幹事）



本年度予算が衆議院を通過したことを受け、憲法審査会が始まりました。

立憲民主党は、これまでの基本、「立憲主義に基づく論憲」という立場で、今国会も審査会に臨んでいきます。

党の憲法調査会では、情報化社会と人権保障、地方自治、国会のあり方、安全保障の

4つの分科会を設置し、憲法の課題に対し、立法事実を抽出して論点を整理しました。各分科会の中間報告では、党としての現時点の見解を明らかにしています。中間報告では、政府による現状の憲法違反の指摘も多岐にわたりました。また、提起された論点の多くは、現行憲法下で、法律の改正や必要な制度の創設によって目的の達成が可能なものです。しかし、中には、時代の変遷を経た現代においては、憲法の見直しが望ましいと考えられる課題もあります。中間報告をもとに、改憲ありきではない正しい論憲を進めていきたいと思っています。

当面の憲法審査会の課題としては、国民投票法の商業規制やネット規制の取りまとめ、さらには、同性婚と安全保障が優先的に論議されるべきだと主張しています。